

病院に携わる方へ

いち
一から学ぶ
病院経営

マネジメントスキルUP



地域医療を支える

四国病院経営プログラム

SHIKOKU HOSPITAL MANAGEMENT PROGRAM

文部科学省「職業実践力育成プログラム(BP)」認定 厚生労働省「教育訓練給付制度(専門実践教育訓練)」指定講座

2023年度
受講生募集

四国病院経営プログラムでは1年間で 病院のトップマネジメントと OODA (Observe, Orient, Decide, Act) を実践できる 現場責任者を養成します

高知大学医学部は、文部科学省の課題解決型高度医療人材養成プログラム事業に選定され、香川大学・高知工科大学・高知県立大学と連携し、平成30年度から令和3年度まで病院経営学のプログラムを開設してきました。このプログラムは、病院長、副病院長などの経営責任者のみならず、医師、看護師、薬剤師、その他の医療従事者、事務担当者など多職種に対応し、病院経営に特化した人材養成を行うものであり、令和4年度以降もこれまで培ってきたノウハウを活かして質の高い人材養成をするため継続してプログラムを実施しております。

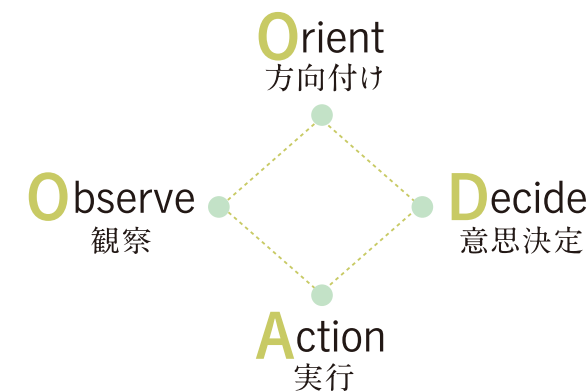
●2020年3月、本プログラムは、文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム(平成29年度選定分)中間評価でS評価をいただきました。

対象者：病院長、副病院長などの経営責任者、医師、看護師、薬剤師、
その他の医療従事者、事務担当者など

OODA

OODA(ウーダ)とは、「Observe(観察)」「Orient(方向付け)」「Decide(意思決定)」「Action(実行)」の思考サイクルを活用し「実践力」を鍛えるプログラム構成です。

受け身型の学びではなく、カリキュラム内に、よりリアルに近い実践の場を設けるなど、実際に現場で役立つマネジメントの「技術」と「実践力」を身につけ、病院のトップマネジメントとともにOODA(ウーダ)を実践できる現場責任者を養成します。



プログラムの特徴

1. **理論と実践の実学**から病院経営を学ぶ
2. **ケースディスカッション**で意思決定模擬実践
3. 病院経営**現場での実践実習**
4. 病院経営に携わる受講者との**出会い**

これまでの修了生は**60**名、現在**15**名が受講中です！
(2018年度～2021年度) (2022年度)

事業推進プロジェクトリーダー
専門分野:病理学

本教育プログラムの特徴は、「実践力」の追求です。よりリアルに近い実践の場を設け、講師陣は第一線で活躍している経営者やコンサルタントを多く配置しました。たくさんのご参加をお待ちしております。

高知大学医学部長・
高知大学大学院総合人間自然科学研究科
医科学専攻長



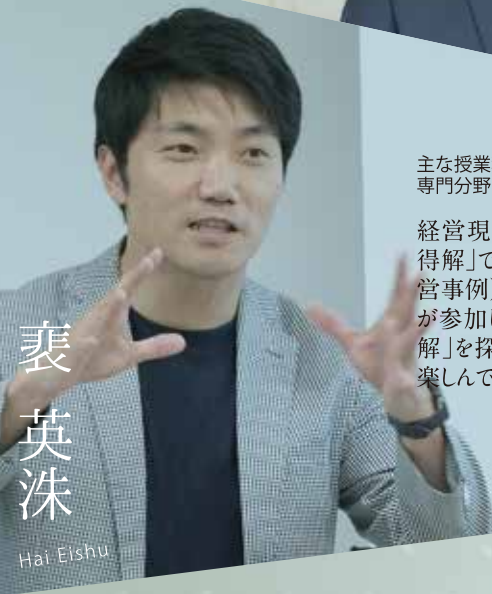
降幡 睦夫

Mutsuo Furihata

主な授業科目:病院経営学演習(ケースメソッド)
専門分野:病院経営、ヘルスケアビジネス戦略

経営現場で重要なのは関係者の「納得解」です。本プログラムでのケース(経営事例)ディスカッションでは様々な職種が参加し多様な視点を得ながら「納得解」を探していきます。ぜひ熱い議論を楽しんで下さい。

ハイズ株式会社代表取締役、
高知大学客員教授、
慶應義塾大学特任教授



斐 英洙

Hai Eishu

主な授業科目:病院経営学実習
専門分野:産業医学、環境医学、衛生学

四国病院経営プログラムは、地域医療を支えている病院のトップマネジャーと現場責任者を同時に育てようとする挑戦的な取り組みです。最高の講師陣とともに病院経営の真髄を極めましょう。四国以外からのご参加も歓迎します。

高知大学医学部教授



菅沼 成文

Narufumi Sukanuma

●プログラム構成

経営学で用いられる考え方を 講義とケースメソッドを通して学び、 現場の課題を解決する能力(実践力)を養います

▼必修科目

病院経営学講義

〈土日集中講義〉

集中セミナー形式

経営5つの基礎スキル「組織」「会計」「財務」「マーケティング」「戦略」を中心に集中セミナー形式で実施します。

病院経営学演習

〈土日集中講義〉

ケースディスカッション形式

経営事例(ケース)を用いてケースディスカッション形式で学びます。

※修了生との交流会あり

病院経営学実習

実践実習

自施設(病院現場等)での実践実習(10~12月)を行います。 ※発表会あり

その他、講演会等あり

▼選択科目

本プログラムで定める公衆衛生学コース科目及び看護学専攻科目の中から選択履修

- ・マネジメント入門 〈土日集中講義〉
- ・医療政策・医療経済学 〈オンライン履修予定〉
- ・医療管理 〈オンライン履修予定〉
- ・メディカルデータマイニング 〈オンライン履修予定〉
- ・疫学研究のための統計学 〈オンライン履修予定〉
- ・産業保健学Ⅰ 〈オンライン履修予定〉
- ・看護管理学
- ・看護管理学演習

●修了要件

1年間で、本プログラムで定める科目から、

**必修科目3科目、
選択科目(8科目から)2科目以上履修し、**
合格すること。本プログラムの修了者には修了証を授与します。あわせて、高知大学から学校教育法第105条の規定に基づき履修証明書(Certificate)を交付します。

●講師陣

**第一線で活躍している経営者や大学講師、
コンサルタント**を配置しています。

●開講時間など

授業は、土日の集中講義や自施設での実習などを除き、**基本的に夜間(18:00以降)開講**です。 ※曜日等は履修希望科目により異なります。

物部 真一郎

Shinichiro Monobe

主な授業科目:病院経営学講義
専門分野:Entrepreneurship /
Venture finance / Digital Health

経営には絶対の正解はありません。当プログラムで、課題に直面した際に活用する、思考を整理するためのフレームを身に付け、直感で行う経営から、考える経営に変化させましょう。

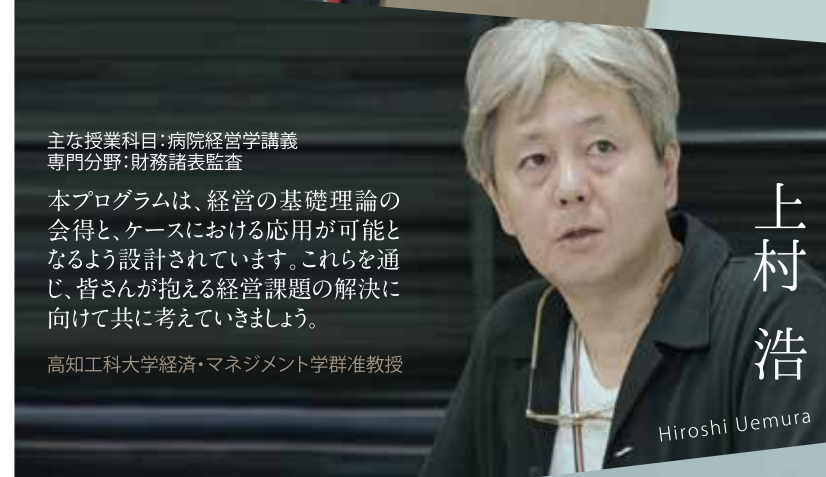
高知大学医学部特任准教授



主な授業科目:病院経営学講義
専門分野:財務諸表監査

本プログラムは、経営の基礎理論の会得と、ケースにおける応用が可能となるよう設計されています。これらを通じ、皆さんが抱える経営課題の解決に向けて共に考えていきましょう。

高知工科大学経済・マネジメント学群准教授



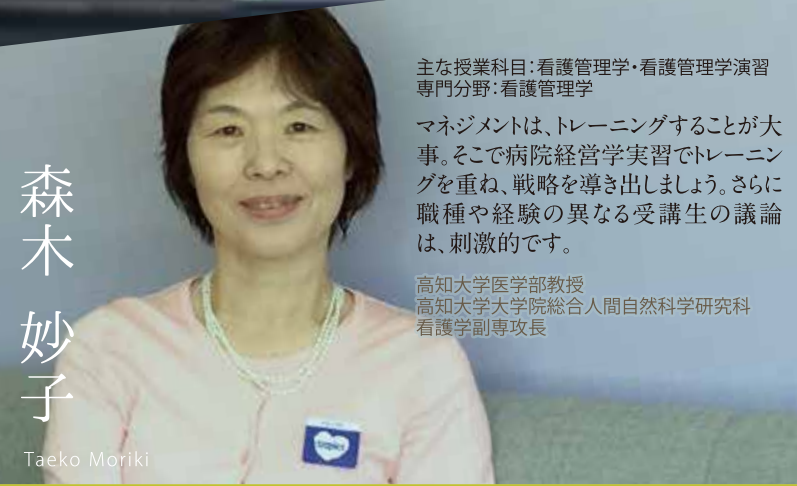
上村 浩

Hiroshi Uemura

主な授業科目:看護管理学・看護管理学演習
専門分野:看護管理学

マネジメントは、トレーニングすることが大事。そこで病院経営学実習でトレーニングを重ね、戦略を導き出しましょう。さらに職種や経験の異なる受講生の議論は、刺激的です。

高知大学医学部教授
高知大学大学院総合人間自然科学研究科
看護学副専攻長



森木 妙子

Taeko Moriki

動機▶看護部副部長の職務内容は、診療報酬改定や施設基準の遵守・加算継続・取得、人材育成、感染管理対策、医療安全対策等で多岐に渡っています。看護師も経営に参画し重要な役割を果たすためには、病院経営を、本格的に学ぶ必要があると思っていました。本プログラムは、OODAを繰り返しトレーニングし、病院経営を体系的・実践的に学ぶことができ、現場での課題解決力を養うことができると思い受講しました。

受講途中の感想▶病院経営学演習のケースディスカッションは、問題意識を持ち、日常に埋もれて気づいていないことに気づく「問題を発見する力」が養われています。

抱負▶本プログラムで学んだ内容を活かし、OODAを実践していき、マネジメント力を高めていきます。また、看護師の視点から戦略を立て、看護力を高め、経営にも貢献していきたいと思っています。



社会医療法人仁生会
細木病院
看護部
副部長
岡崎 千佐子
おかざき ちさこ

動機▶当院の事務部長に当プログラムのお話をいただいたことがきっかけでした。院内ローテーションプログラムで医事・総務・資材管理を学びましたが、病院経営という課題に対して専門的な知識を有しておらず、今後経営判断を担う機会に、「自分で判断することができるのか?」という漠然とした不安がありました。当プログラムに参加することでOODAを活用した判断力、実践力を身につけたいと考え受講を決断しました。

受講途中の感想▶ディスカッションを前提とした演習が多く、課題に対して自身以外の受講者の考えも共有しながら学べますので、多角的な視野を養えた実感しております。

抱負▶課題に対し、何が問題か見抜く力を養いたいと考えております。プログラム内でシーンに応じた課題分析手法やロジカルシンキング手法のレクチャーもありますので、「自分の判断には根拠がある」と言えるような知識を身につけたいです。



社会医療法人敬愛会
中頭病院
用度課
主任
吉田 大輝
よしだ だいき

2022年度
受講生に訊く、
受講の
動機と抱負

動機と抱負

動機▶平成29年から病院長を務め、5年になりました。「精神科医療」に関しては責任をもって意見を述べる事ができましたが、「福祉」「介護」や「経営」といった側面は理事長やスタッフにお任せでした。精神疾患が5疾病のひとつと位置付けられ、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム(にも包括)」等と精神科医療を取り巻く環境の変化に戸惑いつつ、今後の対応をしていくためには法人全体を俯瞰するような視点が必要と考え、一念発起した次第です。

受講途中の感想▶実践的な内容の演習は他のメンバーとの交流も含め刺激的で楽しいです。コロナのせいでオンラインばかりになってしまったのが残念ですが。

抱負▶「多角的な経営が望ましい」「屏風と経営は広げすぎると倒れる」等と言われ、「経営(学)」とは行き当たりばったり、後付けの理由のように考えていました。本講座を受講し、科学的視点を持ち、「なぜならば」と意識し、スタッフが「納得解」を得られるような運営を目指したいと思っています。



社会医療法人あいざと会
藍里病院
病院長
元木 洋介
もとき ようすけ

動機▶昨年からは病院経営に携わるようになり、臨床とは全く違う仕事に戸惑っていました。何を基準にして病院の経営方針を決定すればいいのか、病院の方針が決まっても職員全員が同じ意志を持ち、同じ方向に向かって進んで行くにはどのようにすればいいのかと判りませんでした。そんな時このプログラムを紹介され、まさに自分が知りたかったことが学べるプログラムであったため、受講を決めました。

受講途中の感想▶病院経営の座学だけではなく、演習まで含まれているプログラムであり、受講の度に自分が成長しているのを感じています。

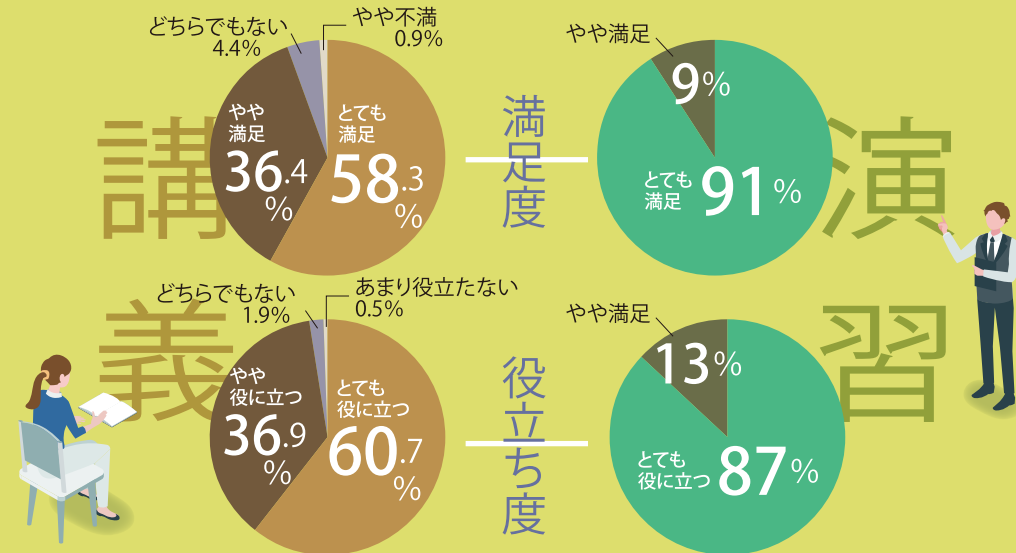
抱負▶働き方改革、地域医療構想、2025年問題、2040年問題、DXなど今後医療を取り巻く環境は大きく変化します。変化に対応しつつ持続可能性のある、患者も職員も幸せになる良い病院を作りたいと考えています。



高知県・高知市病院企業団立
高知医療センター
副院長
渋谷 祐一
しぶや ゆういち

2022年度 週末セミナーについてのアンケート結果より

2018年度～2021年度 週末セミナーの延べ人数で集計
●参加者数[講義217][演習211] ●アンケート回収数[講義206][演習200] ●回収率[講義95%][演習95%]



学び・気づき

病院管理職が学ぶべきものです。自院の同僚たちにも勧めます。次は学んだことをいかに現場が活かすかだと思っています。そこが一番の難関です。

繰り返し演習することで、受講当初よりフレームワークがいくつか考えられるようになってきた。

他の受講生の発言からの気づきや学びも多く、自分の視野の狭さ、思考の単純さを改めて実感することができました。とても興味深く、今後も多くのことを追体験しながら学んでみたいと思いました。

講義

常に最新の情報を得られる。また、経営戦略からマネジメントまで縦割りではなく、線として繋がったものとして学べる点が非常に良い。

理論を具体的に学ぶと同時に、わかりやすい例が紹介されていたので、理解しやすかった。

日々、悶々と感覚だけで行っていた面談や指導を、学問として考える視点に気づかせていただき感謝します。系統立てて医療という観点から経済学を学べる機会は少なく、貴重な講義であったと感じました。

実践的な事が多く、すぐに取りかかろうと思える内容だった。

よかった点

どの演習ケースもリアルで自院の課題に当てはまるものばかりであり、演習を通して考え方を学べて、すぐに現場で実践できます。

講義、資料が分かりやすい。実際のケースを使用しディスカッションがリアルで分かりやすいし、現場で活用できる。

裏先生のファシリテートが分かりやすく、答えを導かせてくれる。

個人の発言を尊重してくれることを前提にしてくれたので、自信を持って思ったことが言え、学びが深まった。

講義で聞いていた内容により実践的に触れることができ、理解が深まった。他の参加者との交流も含め、高揚感をもって参加し、前向きに考えられるようになった。

演習

「受講生・修了生交流会」の感想

修了生からの貴重なご発表は大変参考になった。特にOODAという言葉に惹かれ今プログラムですらに学びたいと感じた。

修了生の皆さんが、病院全体を突き動かすような戦略を練って実行されていたので、とても刺激になりました。

経営改善に取り組んだ結果を、現状においても実務に取り入れ、さらに、上を目指して取り組まれている姿勢が素晴らしいと思います。

各世代のエースがされていたのではないかと、思うくらい刺激的な交流会でした。



医師 (副院長)



高知県・高知市病院企業団立
高知医療センター
林 和俊 副院長
はやし かずとし 地域医療センター長

人の行動を促すことが経営につながる。この本質を、講義や演習を通して学びました。

1 きっかけ

管理職になって感じた、経営を学ぶ必要性

これまで病院勤務の中で、医師としての技術と経験を積んできました。しかし管理職に就いてからは、病院経営についても考えざるを得ません。高知医療センターは県民・市民の皆さんの税金によって支えられています。紹介患者の多い少ない、在院日数の変化などは、病院の収入に直結します。適正な医療を提供するために、我々医師も経営について考えなければいけないと思い、プログラムに参加しました。

2 学び

マーケティングとは、顧客を見極め、顧客の視点で考える

まず、プログラムを通してマーケティングの概念が変わりました。それまではどうすれば利益を上げられるのかという、医療技術を提供する側の視点で考えていました。しかし、マーケティングで考える基点は顧客であり、顧客側の視点で考えることが大事なのだと学びました。私たちにとって顧客とは、患者はもちろん、地域医療連携をしている医療機関も含まれることに気づき、新たな視座の獲得ができました。経営を考えるということは損得勘定ではなく、顧客であれ、チームのメンバーであれ、どのような行動を促すかを考えるということ。その基本がなければ、経営や経済は動かないということが、このプログラムでの学びです。

プログラムでは、実際に病院の立て直しに関わったり、学問としてマネジメントを研究していたりと、さまざまな分野の経験豊富な講師の方から話を聞くことができ、ディスカッションや実習などを経験できました。今後の考え方のベースになるものを培うことができ、自信もつながりました。

4 今後

急性期病院の役割を果たす連携を促進

今後の課題として、ひとつはPFM(Patient Flow Management)に取り組みたいと考えています。センターは地域の医療機関からの紹介患者を受け入れ、落ち着いた地域に戻っていただくことで急性期病院としての役割を果たせます。この流れを活発にするために、いわば顧客である医療機関の先生方を訪問し、連携に当たってのご意見などをお聞きしたいと考えています。

避けようのない高齢化社会の到来に対しては、医療と介護の連携が不可欠です。これは経営陣や管理職だけで考えていてはだめで、病院全体で同じ意識をどうやって広めていくのかというマネジメントが大切です。プログラムで学んだことを糧に、取り組みたいと思っています。

3 現在

実習をきっかけに、院内の心理的安全性を精査

COVID-19の感染拡大の対応に病院全体が追われたため、プログラムで学んだことをなかなか実践できないのが現状です。そうした中でコロナ後を見据え、今年度、医師の管理職研修を初めて実施しました。管理職は医療技術に優れているだけでなく、病院全体や部下のことを考えられるリーダーシップやマネジメント能力が必要です。研修を受けた医師からは、次の世代の人たちにもぜひ実施してあげてほしいという感想をもらいました。

プログラムの実習で、私はセンターの心理的安全性をテーマにアンケート調査を行い、評価しました。その結果について、院内のさまざまな職種の幹部の人たちと共有し、心理的安全性が高い結果になった部署のリーダーがどのような行動をしていたのか、院内の全員にメールで知らせています。心理的安全性を高めるためにはリーダーだけでなく、集団で同じような考え方や意識を持つことが必要だと考えたからです。実習をきっかけに、心理的安全性について院内の実状を調べることができたことも、受講の大きな収穫です。



実習中に構築したプログラムを製品化することで、医療への貢献を目指しています。

1 きっかけ

病院経営の知識や方法論を、体系的に習得したい

2020年に組織の長に就き、設備投資や人事などに携わるようになりました。また私の部署は、放射線技師や理学療法士、臨床検査技師といった異なる専門性を持ったさまざまな年齢の医療技術職員で構成されていて、効果的・効率的に仕事ができる環境づくりが難しいところでした。判断するための知識や方法論を習得する機会がなかったので、体系的に勉強したいと病院経営プログラムの受講を決めました。



高知大学医学部附属病院
医療技術部
徳弘 慎治 医療技術部 副部長
とくひろ しんじ 臨床検査部門 部門長
臨床検査技師長

3 現在

人材教育プログラムの構築で、職員のスキルアップを図る

実習は、臨床検査技師育成のための人材教育プログラムの構築でした。他職種との円滑なコミュニケーションのための「共通言語」の獲得を目的にしたものです。病院のように様々な職種の間が働く職場では、意思疎通が難しい場合があります。他職種とのギャップを埋めるために、医療知識や社会人としての仕事の仕方の基本など身につけておくべき知識を共通言語と定義しました。

その習得のため、一般向けと当院の臨床検査部門が対象の2種類のプログラムを構築中です。院内向けのプログラムは臨床検査部門のスタッフで組織したワーキンググループで検討し、一般向けは外部企業と共同開発を進めていて製品化を目指しています。製品化すれば臨床検査技師が体系的に学ぶことができるので、医療への貢献が期待できると考えます。「研究や社会貢献も使命のひとつ」と掲げている、大学病院ならではの取り組みではないでしょうか。病院経営プログラムの受講がそのきっかけになりました。

2 学び

顧客の意見に込められた、ニーズを察知することの大切さ

プログラムでは私が考えていた以上に、基本的な考え方から実践的な情報まで、多岐に渡って学ぶことができました。講義で教わる理論的な内容はもちろん、病院や会社経営に携わる方々の話も聞くことができ、企業的な視点にも触れられました。

今の業務に活かされていると思うのが、顧客に対する考え方です。患者が顧客であることはもちろんですが、私たちの場合、検査を依頼してくる医師も顧客なのだと思えました。そして、何が求められているのかを察知するためには、日常業務の中で顧客の皆さんの意見を聞くことが必要なのだと思えました。

実習中、顧客である院内の医師に対してアンケート調査を行ったのですが、医療技術職員と認識の乖離があることがわかりました。意見を聞くことの重要性が実感できたのは実習のおかげです。これはスタッフに対しても同様で、トップダウンで指示するのではなく、意見を聞いて現場の不満をくみ取りつつ、理由を説明しながら進むべき方向に全員で目指せるような話の進め方を、このプログラムで学びました。

4 今後

学んだ現状分析の手法を活かし、能動的な提案活動を

多職種が集まる医療技術部の教育訓練についても体系的なものを構築しようと考え、取り組みを始めました。先行している人材教育プログラムがどこまで活用できるかは検討中ですが、基本的な共通言語に結びつくような知識や経験を学ぶことは、医療技術部内にもニーズがあると考えます。

また、受講で教わった現状分析を活かして、病院経営に貢献できるような提案をしていきたいと思っています。これまで基本的には、検査の依頼に応える体制でしたが、現状分析によって能動的に提案ができるようになります。今後はこの活動にも力を入れていく予定です。



異動者のために作成した業務遂行チェックリストは、他部署でも共感、運用してもらえています。

1 きっかけ

病院の経営や役割を考えた戦略が必要な段階に

上司からのすすめが直接のきっかけです。働いている現場が課題を抱える中、作業療法科としてリハビリテーション部としてどう進めていくのか、主任として部下をまとめていかなければならない時期でした。それまで病院全体の経営や病院の地域での役割などを踏まえた戦略を考えていなかったことに気づき、現場責任者の養成が目的である本プログラムの受講を決めました。

3 他部署にも広がった 実習でつくった 現在 チェックリスト

作業療法科では当院を含めた系列病院内で異動が行われます。特に若いスタッフは研修目的の異動なので、異動者本人も指導者も大きな負担を課せられます。そこで、業務効率化を図るための教育体制を整えたいと思い、経営プログラムの実習では異動者のための業務遂行チェックリストの作成と運用を実施しました。これは急性期に特化したもので、私が部署を離れた現在も活用してくれています。また、グループ全体の会議でチェックリストを使った取り組みを発表したところ、同じような悩みを持つ他部署でもチェックリストを作ったと聞きました。部署を超えて共感してもらえたことはうれしかったですし、情報を発信し共有することは大事だと思いました。

管理職と現場で働くスタッフの中間という今の私のポジションは、双方をうまくつなげる役割があります。管理職から出された指示をそのまま伝えるのではなく、それが決まった理由も現場スタッフにわかりやすく伝えることを改めて意識するようになりました。受講後は、自分の部署だけでなく病院経営のこと、高知県全体の医療をめぐる流れも踏まえ、考えられるようになりました。

社会医療法人近森会
近森リハビリテーション病院
作業療法科
道倉 由美香 主任
みちくら ゆみか



2 学び

OODAの講義を通して発信力がアップ!

他の医療機関のさまざまな立場の方と一緒に学ぶのは初めての経験だったので、ディスカッションなどを通じて非常に刺激を受けました。ほかの病院の皆さんが困っていることや工夫している点などがダイレクトに伝わってきて、同じような問題の解決に取り組んでいることに心強さを感じました。また、現場レベルだけでなく、地域や高知県をどうしていくのかという多角的な視点からの意見を聞くこともでき、組織のトップの人たちの考え方も触られました。

受講当時は急性期の部署にいて常に慌ただしい状況でしたが、OODAループを教わったことで、それをイメージしながら対応する思考が自然と身につきました。OODAのフレームに当てはめることで自身の振り返りがしやすくなると共に、それらを言語化し説明することで、スタッフとの共有が容易になりました。

4 次のリーダーたちに 勧めたい、視野が広がる 今後 病院経営プログラム

回復期の病院に異動して半年弱になるのですが、現在は課題を探っている段階です。急性期の病院ではチェックリストを活用することで、患者の不利益を生むような異動者の重大インシデントが出ていないということで、一定の改善効果をあげています。この経験を踏まえて、現在の職場でも異動者用のチェックリストを作っていこうと思っています。

今回プログラムを受講して、より広い視野を得ることができました。ある程度技術を経験して、現場のリーダーや主任などのポジションにつき、次のステップに行く人には、ぜひ受講を勧めたいと思います。



状況を把握し、根拠を持って事に当たる「納得解」に出会いました。

1 きっかけ

看護部の業務と 病院経営の結びつきを学びたい

新型コロナウイルス流行の影響で2020年度後半から病院の稼働率が落ち、病院にとって死活問題になっていました。当時、私は看護部長になって2年目。院内の会議で取り上げられる病床の稼働率や収支の状況が、自分たちの業務とどのようにつながっているのか、しっかり学びたいと考え、プログラムの受講を決めました。そこには、今の状況を何とか打破できないか、という思いがありました。

3 マネジメント力の 向上で、より良い メリット 病床管理へ

実習によって、看護部として病院経営に直結しているものは、病床稼働率に関係する病床管理であることがわかりました。病床管理には医師や社会福祉士など複数の職種がかかわりますが、中でも看護部がかなめになります。そこで実習中から病床管理次世代担当者の育成といった取り組みを行い、マネジメント力の強化を図ってきました。病床管理は、ひとりがわかっていてもうまく進みません。今も役割をきっちり分担したうえで、チームで取り組むようになっています。

講義で教えてもらったように、「絶対解」ではなく「納得解」を持って物事を進めることが、マネジメント力につながると考えています。例えば上司からの指示を言われるがままにやるのではなく、状況を把握して根拠を持って行うことが力になるということです。私自身、意識して行うことにより、周囲への説明がよりうまくできるようになりました。当院は人事異動も多く、新しく配属された人にきちんと情報を伝えることが大切なので、この考え方を部内や院内でも共有できればと思います。

医療法人松田会
近森オルソリハビリテーション病院
看護部
中谷 明未 看護部長
なかや あけみ



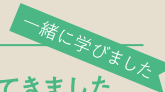
2 感想

現状分析で、問題解決に導く

病院経営にかかわる費用や会計の仕組みについて、一つ一つ掘り下げることを学んだことは大きな収穫です。おかげで、稼働率などの数字を見て、ただ今月は良かった、悪かったと判断するだけでなく、1年前と比べてどうだったかなど、広い視野から読み取る力がついたと思います。

また印象的だったのが、ビジネスでの意思決定や問題解決などに利用する「フレームワーク」という枠組みを使って現状を分析する講義です。今まで何となくやっていた部分を可視化すれば、取り組みの基礎ができることがわかりました。実習では当院看護部のマネジメント力向上をテーマにして、講義で新たに教わったフレームワークを活用した現状分析を行いました。今後は現場での問題解決などにも活用していきたいと考えています。

今回、他の医療機関の人たちと一緒に学ぶことができ、いろいろな職種の方の取り組みを知る貴重な機会も得られました。同じような悩みや問題を抱えていることを知り、どのように解決していくのかを考えられるようになりました。



学んだことが、現場で活かせてきました

中谷さんと一緒にプログラムを受講しました。2人で参加したことにより、互いに高め合うことができたのではないかと思います。受講生でディスカッションした時に、素早く考え発言する「瞬発力」について学びました。会議などで発言を躊躇することがありますが、自分の思ったことを発言しているのだと背中を押された気持ちです。

看護の現場では日々問題が発生し、スムーズに対応できないと後手に回って、解決が難しくなってしまうことがあります。プログラムでは、迅速に現状把握をして、分析、解決策の実施というサイクルをどんどん回し続けなければならないことを教えられました。職場でも意識して行えるようになってきたところです。



医療法人松田会
近森オルソリハビリテーション病院 看護部
山崎 成美 副看護部長
やまさき なるみ

募集要項概要

2023年度 スケジュール(予定)

募集人数	15名
受講期間	2023年4月～2024年3月(1年間)
対面講義場所	主として高知大学医学部(高知県南国市岡豊町小蓮) ※新型コロナウイルスの感染状況によりオンライン授業に変更することがあります ※基本的に必修科目は、対面授業を予定しておりますが、オンライン対応も検討しますので、あらかじめご相談ください。
応募資格	医師、歯科医師、看護師、その他の医療従事者、事務職員、医療関連企業等の中で病院経営に關している者(部署責任者、またはそれに準ずる者等)、今後關与する予定の者で、次の各号のいずれかに該当する者。 1) 大学を卒業したもの 2) 学校教育法第104条第4項の規定により独立行政法人大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者 3) 専修学校の専門課程を修了した者
応募方法	選考料9,800円を振込のうえ、次の応募書類を添えて郵送もしくは持参にてお申し込みください。 ※申請書類は、四国病院経営プログラムホームページからダウンロードできます。
募集期間	2022年12月1日(木)～12月20日(火) [必着]
選考方法	応募書類による選考を行います。
結果通知	2023年2月上旬頃に結果通知書を送付します。
受講費用	186,000円～ 内 選考料9,800円/登録料28,200円/受講料148,000円(5科目)～ 訳 選択する科目数により変動します
履修証明書・修了証授与	本プログラム修了者には履修証明書および修了証を授与します。(学位は取得できません)

1 学期	4月	・オリエンテーション ・選択科目受講届提出	● 選択科目 授業実施
	5月		● マネジメント入門 (土日開校を基本的に調整中)
	6月	● 必修 病院経営学演習(6月17日)	● マネジメント入門 (土日開校を基本的に調整中)
	7月	● 必修 病院経営学講義(7月2日)	
	8月		
2 学期	9月	● 必修 病院経営学講義・演習(9月2・3日)	● 選択科目 授業実施
	10月	● 必修 病院経営学実習(自施設での実践実習)	
	11月		
	12月	● 必修 病院経営学講義・演習(12月2・3日)	
	1月		
	2月	● 必修 病院経営学実習発表会	
	3月	・修了式(実習発表会と同日)	

詳しい情報や募集要項はホームページを検索!

四国病院経営プログラム



〈資料請求先・問い合わせ先〉

〒783-8505 高知県南国市岡豊町小蓮 高知大学医学部・病院事務部学生課大学院係 四国病院経営プログラム担当
TEL:088-880-2290 / FAX:088-880-2264 Email: hmp4@kochi-u.ac.jp

<http://www.kochi-u.ac.jp/kms/koudo/>

